

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800016		
法人名	(株)ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	土岐ケアセンターそよ風 グループホーム(1階)		
所在地	土岐市肥田浅野元町2丁目24番地		
自己評価作成日	平成28年10月4日	評価結果市町村受理日	平成28年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2016_023_kani=trus&ligyosvoCd=2171800606-00&PrefCd=21&VersionCd=023
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

5S運動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)に力を入れている。業務をスムーズに行う、必要な物の合理的な置き方、清潔を保つことの維持管理、気付いたらゴミを拾う等、利用者が快適に過ごせる場所作り。ヒヤリハットの検証、小さな気付き、職員の意識向上により事故を未然に防ぐ。現在、どんな小さな事でも書き出し情報共有し同じ事が起きないように努めている。事故件数の減少につながっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くに土岐川が流れ、のどかな風景が広がっている。周囲には、利用者の散歩コースには最適な場所もある。家族や地域住民との関係を大切にしており、近隣の住民とは日常的な付き合いがあり、旬の野菜が届く関係ができています。玄関にウェルカムボードを置き、訪問者を歓迎する素敵な季節の挨拶、事業所の方針が掲げられている。職員全体に「5S運動」が浸透し、整理整頓された清潔な環境で、利用者の快適な生活とプライバシーが確保されている。できる限り利用者の自立を支援し、手・口を出さず、目配り・気配りの取り組みを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで初めに唱和、テスト形式で理解を深めている。実践についての動きに関してはミーティング内で振り返りを行っている。	理念は「地域とのふれあいの中で、本人の望まれることや、気持ちを尊重する支援」を掲げている。職員の目に付きやすい玄関に掲示し、職員会議で唱和し共有している。手、口を出さず、目配りと気配りでその人らしい暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症になっても安心して暮らせる街作りの活動に参加し、啓蒙運動に取り組んでいる。その活動に利用者の協力も得ている。	自治会の回覧版で、地域の行事、事業所の行事などの情報を交換し、協力関係を築いている。地域の清掃活動、夏祭りに参加をしている。認知症カフェに出かけたり、「RUN伴」など、他の団体が開催する行事に、利用者と共に参加し交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	啓蒙活動の中で認知症になっても出来ることをアピールしている。普段は近所の方の来所時相談にのったり一緒に時間を過ごして頂いている。認知症カフェに職員と共に参加し交流の機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告とともに家族からの意見を頂くが現状維持の内容が多い。維持していく為に個々に合わせたサービスについて提案させて頂いている。	隔月に開催し、行政、地域住民、多数の家族が参加をしている。事業所の取り組み状況、今後の計画、ヒヤリハットの事例などを報告し、助言を得ている。災害訓練や花見を兼ねた食事会を、運営推進会議に合わせて開催し、家族の参加が得られやすい工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市内事業所の連携会議の参加、行政には事故や空き情報等の報告等で足を運んで協力関係を築いている。	困難事例の相談、法律改正など、行政より説明や指導を得るなど、日常的に連携を密にしている。行政主催のケアマネ会議や研修会に参加し、情報交換をしている。市の介護相談員の受け入れも行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスで一方向的に聞くだけでは理解に至らずその場で「拘束」になるのではないかと考えさせるようにしている。その場にいる職員同士でも考えるように指導している。	利用者の転倒やヒヤリハット事例を、その都度、全職員で話し合い、「二度と繰り返さない」「利用者の自由を束縛しない支援」「身体拘束とは」など、具体的な内容で研修を重ねている。馴れ合いから出る言葉遣いも実例をあげて、職員間で注意喚起を行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング・センター全体の会議の年間計画に研修が組まれており理解し実践につなげている。言葉によるものもある事を伝えるが普段も発していることがありその場で声をかけ合うようにしている。		

岐阜県 グループホーム土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる人はいないが、家族からの相談にはのっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約には時間を設け説明している。改定の際は会議や面会、お便り等で説明しご理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見、要望を受け付け面会時にも伺う。利用者の暮らしぶりについて月に一度郵送し家族からの意見記入し返送出来るようにしている。推進会議の会議録にまとめ行政に提出している。	利用者と家族の意見や要望を、訪問時や運営推進会議で聴いている。毎月、事業報告と共に、利用者の暮らしぶりが分かる写真、個々の利用者の状態を記入し送付をしている。家族からの質問には迅速に対応している。	事業報告や利用者の様子等を、文書にて家族に送付しているが、さらに、訪問時に、直接伝えて、意見交換ができる取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター全体の会議が月に一度ある。そこで聞く機会を設けている。普段でも気軽に話せるように関係作りに努めている。	管理者も現場の仕事に携わり、日頃から職員の気づきや意見を聞き、速やかに解決できる事項や、全員で検討をすべき課題についてを把握している。職員の働きやすい環境整備に努め、個々の要望を受け止めており、退職した職員が、復帰する事例が多くある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や契約更改時の面談だけでなく日頃のコミュニケーションの中から個々に合った目標設定や、やりがいなどについて話している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらのトレーニングが多い。研修は案内を回覧し希望者にはシフトの調整を行っている。出席者には報告書と共にミーティング内で発表してもらい他の職員も勉強出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設連携会やボランティア活動で横のつながり、顔の見える関係作りをし、意見交流する中でサービスの質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の段階で本人の要望を聞くことは困難であり、家族の思いが反映される。施設生活に慣れていくことで少しずつ本人の思いが表出し関係性が出来てくる。本人にとっての安心とは何かを模索しながら支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階ではほぼ家族の要望となる。その思いを傾聴し一緒に解決に近づける気持ちを共有し利用者支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思い、本人の状態を観察し併設するサービスもご案内しながら選択肢があるということも説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々を尊重し残存能力を活かした支援をする様指導している。カンファレンスの際にも残存能力や本人の希望など再確認の上、情報共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の報告をするだけでなく、家族の要望も常に伺っている。協力して頂きたい点についてもお伝えし共に支援するという思いで努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設するサービスを利用されている方との交流、家族の協力で成り立つ交流等、継続出来るように支援している。	認知症カフェに出かけ、近隣の住民に会ったり、隣接するデイサービス利用者との交流がある。家族と買い物や食事、墓参りなど、馴染みの場所にでかけている。親戚、知人、近隣住民の訪問もあり、会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要時には介入するが、互いを労わる姿が常にあり、職員が介入し過ぎることのないよう見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご本人を訪問したり、ご家族の相談にもものっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で、本人の意向・思いを聞きカンファレンスで情報共有しケアプランに反映している。自己表現の困難な方も職員本位にならない様注意し日頃の観察から読み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から聞き出すには困難な方もある。家族は余り把握されていない事が多い。面会にみえる友人や近所の方が情報を下さることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の介護記録、申し送り等から把握し、必要な支援について日々職員同士で検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	細かな視点でのモニタリングを行い、カンファレンス、家族・本人の思い、医療関係者の意見をふまえて達成可能な短期目標を設定することを大切にしケアプランを作成している。	家族からは、訪問時や電話で意見や要望を聴き、職員の意見や介護記録を基に、医師、看護師等、関係者と話し合い、介護計画を作成している。ケアの実践とモニタリングを繰り返し、具体的な目標を盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を残す意味を理解し生きた記録となるよう指導している。気づき、工夫は日頃から意見がありケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調不良時に自施設他部所の看護師に相談することや、職員による通院介助も行っている。		

岐阜県 グループホーム土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・近所の方との交流、介護相談員派遣、認知症カフェでの交流等、地域の協力を受けながら安全で安心できる生活を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医との関係を尊重し受診して頂いている。協力医は月2回の往診があり健康管理をして頂いている。	かかりつけ医についての事業所の方針を、契約時に説明し同意を得ている。協力医は月2回の診療訪問がある。また、週1回、歯科医の往診や歯科衛生士、訪問看護師の訪問があり、適切な医療体制が整っている。原則、かかりつけ医への受診は家族が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問があり、その都度情報提供し利用者の健康管理をして頂いている。異変時は協力医に連絡して下さり適切な診察を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護サマリーの提供、情報交換や相談を行っている。退院時のADLの予測等を確認し、戻ってきて頂けるよう職員とも情報共有するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態と看取り関し施設で出来ること出来ない事を家族に説明、徐々に変化する家族の思いを汲み取りながら対応を行い、チームで協力し看取りに取り組んでいる。	重度化や終末期について、事業所の方針を利用者、家族に説明し理解を得ている。状況に応じ、早い段階で利用者、家族や関係者が十分に話し合い、適切な支援をしている。看取り介護については、日々、職員研修を重ね、家族の協力のもと、医師と連携しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の電話連絡、利用者の状態の的確な説明等、日頃から指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の年2回の実施。近所の方協力の下避難誘導を行っている。消防署の協力体制もとっている。	夜間想定を含め、年2回消防署立ち会いのもと実施し、連絡網、器具の取り扱い、誘導、組織内の連携など詳細に行っている。近隣の協力体制も整っている。地震、水害については、今後、地域の訓練に参加できるよう検討中である。	地域全体の防災訓練の情報を得、事業所として、訓練に参加できることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の出入りが少なく、慣れあいになる事が多い。接遇に関しては特に研修の機会を多く設けている。個々の人格の尊重に努めている。気付いた時にはその場で声を掛けている。	利用が長期になると、職員が利用者と馴れ合いになり、無意識に言葉遣いが乱れたりすることがある。管理者は接遇の研修を重ね、現場での気づきを職員間で話し合い、利用者の尊厳を大切にケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を心掛けている。困難な際には二者選択等出来る範囲で確認している。出来ない方には表情を確認し笑顔を引き出せるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受け身の方が増えており、色々な情報・選択肢を提供することもある。他は思い思いに過ごす方で、見守りのみしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服、化粧品等不足時には家族にお願いしている。訪問理美容では自身で注文して頂けるようにお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材の利用、中庭での野菜の収穫。食べたい物の話しが出たときには必ず献立に組み入れるようにしている。能力に合わせ出来る部分での調理手伝い、後片付け等協力を得ている。	利用者と共に、食材の買い物に行き、利用者が品選に一役買っている。庭で育てた旬の野菜を献立に取り入れ、朝昼夕の三食の食事作りや後片付けを利用者も手伝い、食事を皆で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量、水分量を記録し把握。体重管理、健康状態を確認し個々に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア。歯科衛生士による口腔内の定期的な清掃と管理。夜間は義歯を預かり洗浄液に浸けている。協力歯科医による往診もある。		

岐阜県 グループホーム土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し誘導することで失敗を減らすよう努めている。パッドの当て方等も勉強会を行っている。	個々の排泄パターンを全職員が把握しており、声かけと誘導で、トイレでの排泄がほぼ習慣になっている。入居時、リハビリパンツの利用から布パンツに改善された利用者もあり、利用料負担軽減にもつながっている。夜間は排泄量に合わせたパッドに変更している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の活用・運動で腸の活性化を図る。水分補給も声掛けし予防に努める。必要に応じ主治医に相談し服薬対応もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に毎日入浴出来る体制をとっている。職員と一对一の時間であり普段話せない事でもゆっくりと話して下さる大切な時間となっている。	入浴は毎日利用できる体制があり、希望すればいつでも入浴可能であるが、利用者は、ほぼ1日おきに個浴の入浴を楽しんでいる。介助の際には、利用者とのコミュニケーションの場と捉え、若い頃の話や得意なことなどを話題にしながら、入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は自由にとって頂いているが夜間の安眠確保の為日中はなるべく活動的に過ごして頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋には必ず目を通し押印している。新しく処方された時にはしばらく様子を観察する事等、日々の情報共有を大切にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、畑仕事等それぞれの得意とすることに、お任せする形で職員が指導を受ける側に徹する。それにより役割として自信を持ち生き活きと動いて下さる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食、喫茶店、散歩等行っている。家族の協力を得て美容院、旅行、お墓参り等に出かけている。	徒歩の人と車椅子の人が、共に近隣を散歩し、季節感を味わいながら、地域住民と会話を楽しんでいる。また、職員と一緒に、買い物や喫茶店に出かけている利用者もある。年間行事では、桜、紅葉、藤などを観に出かけている。	

岐阜県 グループホーム土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員の理解はあっても、利用者にお金の管理が難しくなっている。可能な方には一緒に出掛け、見守りの中で使用して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけること、手紙を書くことも大切な残存能力として、支援している。本人の安心感につながっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切に、室内を装飾している。和みや温かみを感じて頂けるよう光、音等配慮している。	広い共有空間には、加湿器を備えており、清潔で明るく、車椅子での往来も安全にできる。対面式の台所からは、職員が作業をしながら利用者を見守っている。利用者は、畳のコーナーやソファでゆっくりとくつろぎ、天気の良い日には、中庭でお茶を楽しんだりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファ、畳の上、廊下に置いた椅子等好きな場所でくつろいで頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んで頂く様依頼している。転居は認知症にとってダメージが大きい為見慣れた家具等を置くことで安心して過ごして頂けることを家族に説明している。	居室には、大きなクローゼットが設置され、安全に広く利用できる。家族と相談し、使い慣れた家具や本人が大切にしていた小物等を持ち込み、家族の写真、小物を好みに飾り、安心して自分らしく暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札、トイレ・浴室には認識しやすい張り紙がある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800016		
法人名	ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	土岐ケアセンターそよ風グループホーム(2階)		
所在地	土岐市肥田浅野元町2丁目24番地		
自己評価作成日	平成28年10月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1度のカンファレンスなどで確認しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物、散歩に出かける事により地域のつながりがもてるようにしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所より外に出る事により認知症の方が地域に共に暮らしている事を伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話があった事は申し送り全職員が共有しサービスの向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議への参加依頼、介護相談員の月1度の訪問情報交換しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内での勉強会を行う事や外部の講習にも参加することで職員1人1人が正しく理解出来る様にしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い無意識のうちに行いがちな行為についても理解を深め防止に努めています。		

岐阜県 グループホーム土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解を深め必要となった際には支援できるよう努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては事前に説明を行い納得を図り改定の際は会議や来所時に説明、報告を行い理解、納得を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様、利用者様など要望、意見が言える環境作りをし運営に反映させています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中や毎月のミーティングの際などにおいて意見や提案を聞きセンター長との検討も行いながら反映出来るようしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人の仕事に対しての思いなどを評価しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	面談などで1人1人のケアを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に一回の社内の担当者会議に出席し情報交換や勉強会を行い交流を深めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	いろいろな思いで入って見えると思います。少しでも話しやすい雰囲気作りをして不安の軽減、安心な関係が作れるよう声掛け、傾聴しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の立場になり思いや要望に応えられるように話をさせて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で家族様・本人様が何を望んでいるかを引き出しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で出来る事を伸ばし出来なくなった事にはお手伝いさせて頂くとの思いで介入させて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様が家族様に言えない思いを代弁できるようにお互いの間に入っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への訪問、知人・近所の方との交流、入りやすい玄関作りをしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人での対応だが皆さんと一緒に出来る事には笑顔で参加して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も家族様からの相談も受けており地域のホームとしての支援を目指しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉、表情から読み取れる様に声掛け寄り添っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの情報収集に努め本人様とはコミュニケーションの中で情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で見守りをして本人様の過ごし易いよう環境を整えています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	よりよいケアとなるよう随時意見がある時は声を掛け話し合いをしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全スタッフが必ず記録を読み情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当センターにはデイサービス・ケアホテルがあるので利用されている方がグループホームで会いたい方がいらっしゃる時は会って頂いています。		

岐阜県 グループホーム土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部の方の訪問にて地域の情報獲得、地域の話しを聞くことによって利用者様に楽しんで頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1度の集団往診、月1度の個別の往診にて対応、かかりつけ医以外の受診も家族様にて対応して頂いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護師の来訪あり、体調の報告・相談している。看護師から往診医への報告あり。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	やむを得ず入院した際は病院関係者との情報交換を行い今後の支援の方向性を検討します。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期の話しをさせて頂き家族様の意向をあらかじめ確認しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成、社内研修、個々に勉強しています。訪問看護師への相談が出来る環境があります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を実施しています。利用者様個々の移動能力についても普段から把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛け、対応は慎重に行い1人1人に合った対応を心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いの傾聴に力を入れ信頼関係を作り自己決定出来る様に声掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の方のペースを把握し意思や体調に配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の利用、本人様の好きな長さに切って頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の能力に応じた食事作り片付け等、一緒に行っています。庭で作った野菜などで旬を感じています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人様の摂取量などを考慮しながら提供しています。水分量、摂取量は記録に残し1日を通しての量を確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを促し必要があれば介入し清潔保持しています。夜間は義歯を預かり薬剤洗浄をしています。		

岐阜県 グループホーム土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや能力、習慣を見極めて必要最低限の介入をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼る事もあるが出来る限り普段より便秘を予防するような食材の使用を心掛け水分摂取も促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の意思を尊重し入浴して頂いています。入りたくない時などあれば明日にする等検討しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時・起床時以外でも本人様のリズムに合わせて休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ1人1人が、飲まれている薬を把握しています。体調変化がある時はすぐに対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の能力を見極めて喜びを感じられるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りの希望に添える様にしています。その他にも散歩・買い物なども実施しています。		

岐阜県 グループホーム土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が一括して管理しており必要に応じて買い物をしている。希望がある時は一緒に買い物に行けるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望があれば取り次ぎます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	癒しの空間となるように季節の花や装飾に配慮します。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りの時間も自ら確保されたり自由に過ごされる中で必要な時のみ介入します。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着ある物、思い出のある物を居室に配置しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の能力、今出来る事への支援の方法によって今後出来ると思われる事を判断し生活の流れの中でその人の力が発揮出来るよう声掛け誘導を行います。		